

生徒が自分との関わりで道徳的価値の理解を深める道徳科の授業の展開 — 役割演技等の体験的な学習を取り入れた指導の工夫を通して —

坂町立坂中学校 倉本 法子

研究の要約

本研究は、生徒が自分との関わりで道徳的価値の理解を深める道徳科の授業の展開について考察したものである。先行文献において、役割演技等の体験的な学習を道徳科に取り入れることの有効性が示されているが、中学生に対し、積極的に取り組まれていない現状がある。文献研究により、中学生の発達段階では、役割演技等の体験的な学習を道徳科に取り入れる際、スモールステップやウォーミング・アップによる人前で演じることへの抵抗感の軽減や周囲からの受容や肯定的な助言等を交流させるためのシェアリングを重視する必要があることが分かった。そこで、その2点を取り入れた指導の工夫を行い、その有効性を検証した。その結果、生徒が自分との関わりで道徳的価値の理解を深めることができ、中学生の発達段階を意識し、役割演技等の体験的な学習を取り入れた指導の工夫を行うことは、生徒が自分との関わりで道徳的価値の理解を深めることに効果的であると分かった。

I 主題設定の理由

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別の教科道徳編（平成30年、以下「29年解説」とする。）では「自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うには、道徳的価値について理解する学習を欠くことはできない。」¹⁾と生徒が道徳的価値を理解する重要性について示している。また、「29年解説」には「生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、物事を多面的・多角的に考えたり、自分の問題として受け止め深く自己を見つめるなど学習が深まるように留意する。」²⁾とあり、自分との関わりで道徳的価値の理解を深める重要性について示している。

生徒に道徳的価値を自分との関わりで捉えさせるために、「29年解説」では「道徳科の授業に動作化や役割演技、コミュニケーションを深める活動などを取り入れることは、生徒の感性を磨いたり、臨場感を高めたりすることとともに、表現活動を通して自分自身の問題として深く関わり、ねらいの根底にある道徳的価値についての共感的な理解を深め、主体的に道徳性を身に付けることに資する」³⁾と示しており、役割演技等の体験的な学習を道徳科に取り入れることが有効であると示している。

しかし、文部科学省が全国的に行った「平成24年道徳教育実施状況調査」⁽¹⁾によると「動作化、役割演技等の表現活動の工夫」に取り組んでいた学

校は、小学校42.8%に対し、中学校14.5%であった。中学生にとって有効な指導方法であるにもかかわらず、中学校ではほとんど取り組まれていないという現状があった。その原因や役割演技等の体験的な学習に対する現場の教員の意識を把握するため、所属校において、道徳科の授業における役割演技等の体験的な学習についての教員対象アンケートを行った。その結果、取り入れる上でのよさや難しさについて、表1のような意見が挙げられていた。

表1 体験的な学習に対する現場の教員の意識

よさ	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が、状況や人物の気持ちについて理解しやすく、生徒に実感が伴いやすい。 ○生徒が道徳的価値の理解を深めやすい。
難しさ	<ul style="list-style-type: none"> ○男女のグループやペアで活動することが、難しい。 ○生徒が恥ずかしがって真剣に取り組めないことが多い。 ○生徒に、役になりきらせることが難しい。 ○思春期の中学生を人前に出し、演技させることは難しい。 ○誰にどの役を担当させたらいいのか分からない。 ○日頃の学級経営がうまくいっていないと、安心して生徒が取り組めないため、取り入れるのに躊躇する。 ○楽しいだけで終わって、ねらいを深められないことがある。

これらのことから、よさは感じているが、思春期の中学生において、役割演技等の体験的な学習を取り入れる難しさや抵抗感、不安を感じていることが分かる。そこで、中学生という発達段階を踏まえた上で、生徒が自分との関わりで道徳的価値の理解を深めるための役割演技等の体験的な学習を取り入れた指導の工夫について研究したいと考える。

Ⅱ 研究の基本的な考え方

1 生徒が自分との関わりで道徳的価値の理解を深める道徳科の授業の展開について

(1) 生徒が自分との関わりで道徳的価値の理解をするとは

「29年解説」では、道徳的価値の理解について「道徳的価値について理解するとは、発達の段階に応じて多様に考えられるが、一般的には、道徳的価値の意味を捉えること、またその意味を明確にしていくことである。」⁴⁾と示されている。赤堀博行(2017)は、道徳的価値の理解とは、道徳的価値やそれを実現することのよさや難しさ、それに関わる多様な考え方、感じ方を理解することとし、こうした理解を観念的ではなく、自分との関わりで実感を伴って行うことで、自分との関わりで行うことが重要であると述べている。広島県教育資料(平成31年)によると、道徳的価値の理解について、次の3点を示している。

- 価値理解…内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること
- 人間理解…道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること
- 他者理解…道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つでない、多様であるということをも前提として理解すること

これらのことから、生徒が自分との関わりで道徳的価値の理解をするとは、道徳的価値の意味や道徳的価値を実現することのよさや大切さを理解しつつも、なかなか実現することができないという人間の弱さなども理解し、それに関わる多様な考え方、感じ方を、自分との関わりで実感を伴って理解することであると捉える。

(2) 自分との関わりで道徳的価値の理解を深めるためには

「29年解説」では、道徳的価値の理解を深めるための具体的な方法として「具体的な道徳的行為の場面を想起させ追体験させて、実際に行うことの難しさとその理由を考えさせ、弱さを克服することの大切さを自覚させること」⁵⁾や「教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習」⁶⁾を示している。さらに、「自己との関わりを問い直すことによって、そこから本当の理解が始まる」⁷⁾と道徳的価値の理解を深めるには自分との関わりを問い直すことの重要性も示している。小宮健(2018)

は、道徳的な価値を自分に引き付けて考え、実感を伴って理解するためには、役割演技が有効な指導方法であると述べている。赤堀(2017)もまた、即興的演技を行ったり、その演技を観察したり、役割交代したりすることが自他の考え方、感じ方の違いを認識し、道徳的価値に対する理解を深めることが期待できると述べている。

これらのことから、生徒が自分との関わりで道徳的価値の理解を深めるためには、追体験や疑似体験的な学習によって、道徳的な価値を自分に引き付けて考えることで、自他の考え方、感じ方の違いを認識し、道徳的な価値を自分との関わりにより問い直していく中で、道徳的価値の理解を深めることができると考える。つまり、道徳的な価値の理解を深めるためには、追体験や疑似体験ができる、役割演技等の体験的な学習を道徳科の授業に取り入れ、道徳的価値を実感的に理解させ、自分との関わりを問い直させることが必要であると考ええる。

2 役割演技等の体験的な学習を取り入れた指導の工夫について

(1) 役割演技等の体験的な学習とは

道徳的行為に関する体験的な学習の具体として、動作化、役割演技、モラルスキル学習の三つが多く教科書で取り上げられている。そこで、それぞれの特徴や基本的な授業の流れ、よさや留意点を整理して次頁の表2に示す。

(2) 中学生の発達の段階について

保坂亨(2000)は、中学生の時期における人間関係の特徴を、サリヴァンの親友関係の概念を発展させ、互いの共通点や類似性を確かめ合い、仲間と同じであることを重要視する時期であると述べている。また、西谷正太・藤川慎也(2015)は、この時期の心理状態について、仲間からの受容、助言や意見、関係性を維持することに強力な価値を見だし、仲間からの拒絶への過剰な恐れや孤独感が高まる時期で、極端に孤独を感じやすいと述べている。

これらのことから、思春期の中学生は、自分が周囲にどう受け入れられるかを強く意識し、仲間と同じであることを求める時期であることが分かる。それは、人前に出るなど、周囲とは違う行動をすることを厭う時期であるとも言える。そのため、中学生の時期に行う、役割演技等の体験的な学習は、生徒にとって、人前で演じることへの抵抗感の軽減を行い、周囲の生徒からの受容や肯定的な助言等を交流させる工夫が必要であると考ええる。

表2 道徳的行為に関する体験的な学習の具体

	動作化	役割演技	モラルスキル学習※e
特徴や基本的な授業の流れ	○教材中の登場人物の動作を模倣、模倣したり、それを反復したりすることで、子供が登場人物になりきって、その考え方、感じ方を自分事として考える活動。※a	○教材の登場人物などに自我関与して即興的に演じることで、子供は自分事として考え、話し合いなどの対話的な学びにより、多様な考え方、感じ方に出合う活動。※a ①ウォーミング・アップ：役割演技を行うための雰囲気作りをする。緊張を解す。 ②条件設定：役割演技の場面を示して、その状況、登場人物の役割などの条件設定を行い、理解させる。 ③役割や条件に即した即興的演技：それぞれの役割や場面の状況などを十分に把握した上で即興的な演技を行う。 ④演技の中断と話し合い：演技を中断し、授業者の助言を基に、演技者と観衆との話し合いを深める。 ⑤役割交代：お互いの役割を交代して演技を行う。 ⑥演技の終了と話し合い：演技者と観衆が話し合って、道徳的価値の理解を深める。※a	○常に道徳場面を想定して学習を行い、行為に関するスキルを学びながらも、同時に道徳的価値を学び、道徳性を育む活動。 ①資料の提示：道徳教材を提示する。 ②ペアインタビュー：二人一組になって、登場人物になってインタビューし合う。 ③ロールプレイング1：教材の一場面を演じる。 ④シェアリング：感じたことを話し合う。 ⑤メンタルリハーサル：教材から離れ、教師が類似した場面を提示して、イメージさせる。 ⑥ロールプレイング2：その場面を実際に演じる。 ⑦シェアリング：感じたことを話し合う。 ⑧課題の提示：課題を提示して、別の場面でも使用できるようにする。
よさ	○生徒の感性を磨いたり、臨場感を高めたりすることとともに、表現活動を通して自分自身の問題として深く関わり、ねらいの根底にある道徳的価値についての共感的な理解を深め、主体的に道徳性を生徒に身に付けさせることができる。※b ○叙述から外れず、生徒も容易に取り組める。全員を立たせて一斉に行うことが可能であるため、全員参加した上で、短時間で必要な効果を上げられる。※c	○子供が自分自身の体験などを基に、新しい事態に適応する反応を模索する中で、創造的に適応する能力を身に付け、様々な問題場面に出合ったときに望ましい行為を主体的に選択できるようになる。※a ○道徳的価値のよさを、他者から教えられるのではなく演じることを通して自分に引きつけて考え、実感的に理解することができる。※d	○演じる場面が現実的な場面である点や、グループやペアの形態で、複数の生徒が同時に演じるという点で、中学生にとって心理的な負担が少ない。また、道徳的価値が明確であるため、実際の場面でどんな行動をとればよいのか考えやすく、生徒が日常生活と結び付けやすい。 ○1回のロールプレイングとシェアリングだけでもできる。
留意点	○体験的行為や活動そのものを目的として行うのではなく、授業の中に適切に取り入れ、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが重要。※b ○活動を行って終わるのではなく、生徒が体験を通じて学んだことを振り返り、その意義について考えることが大切。※b	○行動のスキルを養うことを目的とはせず、行動を修正したり、習熟・伸長させたりするのではなく、あくまでもその行為のよさを実感的に味わい、その行為を行うことへの前向きな気持ちを膨らませるために行う。※c	○スキル学習だけに重点を置いてしまうと、道徳科のねらいの本質と離れていると指摘されやすい側面をもっているため、道徳的な資料や教材との繋がりを意識して行うことが重要。

※aは赤堀（2017）、※bは文部科学省（平成30年）「29年解説」、※cは坂本哲彦（2019）、※dは早川裕隆（2017）、※eは林泰成（2016）による。

(3) 中学生の発達の段階を意識した役割演技等の体験的な学習の工夫とは

増田謙太郎（2018）は、長年にわたり小・中学生の劇団を主宰していた経験から、小・中学生が即興的に演じることは非常に難易度が高く、心理的な負担があることを指摘している。また、天野幸輔（2017）も、中学校における役割演技に関する先行研究の少なさは、その難しさを意味しているとし、仲間の前で演ずることが恥ずかしいこと、からかいの対象になること、自主的な演技手が出にくいことなどを指摘している。江橋照雄（1971）は、精神的緊張、身体的緊張をやわらげてのびのびと演技していくように導くためのプロセスとして、ウォーミング・アップを重視し、誰もが経験し、単純で、簡単な動作やセリフから始めていくことを提案している。早川（2017）は、ウォーミング・アップなしでいきなり役割演技をさせようとするのは、乱暴すぎるとし、ウォーミング・アップを行わないことの弊害を述べている。岡嶋一郎・針塚進・武藤のぞみ（2001）らは、ウォーミング・アップの方法として

椅子から離れ、身体の動きを伴う活動を体験した参加者は、ほかのウォーミング・アップに比べ、親和性、心的高揚感、人前で演じることへの動機付けにおいて高い数値を示したと述べている。

これらのことから、役割演技などの前に、ウォーミング・アップで簡単な動作や声を出させることが、人前で演じることへの抵抗感を軽減させるため、重視すべき点と考える。

磯部一雄・杉中康平（2019）は多様な思いを引き出し、学び合うため、ホワイトボードや磁石を活用して意見交流する「動き」のある授業を提案している。これは、ホワイトボードに自分の考えを記入し、黒板に掲示した後、生徒一人一人が「共感」「質問」の磁石を貼り、意思表示するものである。授業者は、生徒の「共感」「質問」といった視点から話し合いを深められ、教師と生徒との一問一答の流れを克服できると述べている。つまり「共感」「質問」の磁石を置くことから、周囲の生徒からの受容や肯定的な助言等を受けやすく、心理的な負担の軽減にも繋がりやすい。さらに、ホワイトボードを活

用した交流により、見える化が促進され、生徒の意見が深まりやすく、学級全体でシェアリングしやすいと考える。

以上のことを踏まえ、思春期という中学生の発達の段階を意識した、役割演技等の体験的な学習を取り入れた指導の工夫を表3に示す。

表3 中学生の発達の段階を意識した、役割演技等の体験的な学習を行うための工夫

名称	ポイント	効果やよさ
スモールステップ	○即興性が低い体験的な学習から始めるようにする。(例：動作化→モラルスキル学習→役割演技) ○1時間の授業の中では、導入でウォーミング・アップを行い、緊張感を解し、展開や終末で体験的な学習を取り入れる。 ○人前に出て行う役割演技等は短時間から始め、徐々に長くする。	○人前で演じることへの抵抗感が軽減される。
ウォーミング・アップ	○席に着いてできるもの、席を離れて行うもの、体を簡単に動かすもの、体全体で表現をするものなど、様々なウォーミング・アップを組み合わせる。 ○授業で中心として行う体験的な学習が何なのかを把握した上で、その体験的な学習に移行しやすいウォーミング・アップを選択する。(例：ペアインタビューを予定している場合は、ペアでの活動を取り入れる。)	○生徒の緊張を解す。 ○人前で演じることへの抵抗感が軽減される。
シェアリング	○黒板にネームプレートを貼る。 ○ホワイトボードに書かれた生徒全員の意見に磁石を置いて、「共感」や「質問」を意思表示する。	○全員参加できる。 ○生徒同士のやり取りで、感想を深められる。 ○生徒同士の受容や肯定的な助言等がしやすくなる。 ○見える化が促進される。

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

中学生という発達の段階を意識した上で、役割演技等の体験的な学習を取り入れた指導の工夫を行うことは、生徒が実感を伴って、自分との関わりで道徳的価値の理解を深めることができるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表4に示す。

表4 検証の視点と方法

検証の視点	検証の方法
道徳科の授業において、生徒が自分との関わりで道徳的価値の理解を深めることができていたか。	・行動観察 ・ワークシート ・事前・事後アンケート
役割演技等の体験的な学習を取り入れた指導の工夫は、自分との関わりで実感を伴って道徳的価値を理解することに効果的であったか。	・授業後の振り返り

Ⅳ 研究授業について

1 研究授業の内容

- 期 間 令和元年12月3日～令和元年12月16日
- 対 象 所属校第1学年(3学級106人)

2 検証授業の概要

生徒が自分との関わりで道徳的価値の理解を深める道徳科の授業を展開するための指導の工夫として、役割演技等の体験的な学習を取り入れた3回の授業を実施した。授業の概要を次頁の表5に示す。

V 検証授業の分析と考察

1 生徒が自分との関わりで道徳的価値の理解を深めることができていたか

(1) 事前・事後アンケート結果の分析

生徒が自分との関わりで道徳的価値の理解を深めることができていたかに関わる事前・事後アンケート結果の比較を図1に示す。

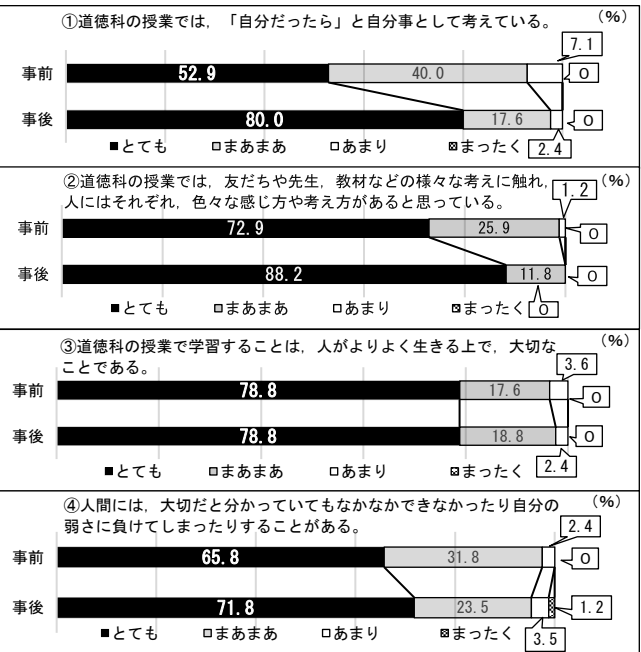


図1 検証授業の事前・事後アンケートの結果 (n=85)

図1の①②③の項目において、肯定的な回答が増加した。特に、図1の①②の「とてもあてはまる」と回答した生徒が増加した。また、図1の④に関しては、肯定的な回答は2.3ポイント減少したものの、「とてもあてはまる」と回答した生徒は6.0ポイント増加しており、人間の弱さについて考えを深めることができた生徒が多いことが分かる。

これらのことから、生徒が自分との関わりで道徳的価値の理解を深めることができたと考えられる。

表5 検証授業の概要

	検証授業①	検証授業②	検証授業③
実施日	令和元年12月3日, 12月5日	令和元年12月9日, 12月11日	令和元年12月13日, 12月16日
主題名	クラスの生活をよくするために	バレなければ何をやってもいい?	その人が本当に望んでいること
内容項目	C (11) 公正, 公平	C (10) 公徳心	B (6) 思いやり
ねらい	主人公が席替えのやり直しを提案した場面についての動作化を行って考えることを通して, 公正, 公平さを重んじることの大切さを理解し, 公正, 公平な行動を心がけようとする道徳的態度を養う。	「傘のちょいがり」という場面を取り上げ, ロールプレイングを通して他者の心情を想像したり, 道徳的場面を体験したりすることを通して, どのような場面や状況であっても, 社会生活において互いに迷惑をかけることのないような行動をとろうとする道徳的態度を養う。	落ち込んでいる由紀さんに対して, 周囲の友だちがどうするとよいか考え, その場面を役割演技することを通して, 相手の立場や気持ちを考え, 思いやりをもって接しようとする道徳的態度を養う。
教材名	「席替え」	「ちょいがり」	「その人が本当に望んでいること」
出典	「新しい道徳1」東京書籍	「中学校道徳授業で仲間づくり・クラスづくり モラルスキルトレーニングプログラム」明治図書	「新しい道徳1」東京書籍
取り入れた体験的な学習	動作化	モラルスキル学習	役割演技
即興性	低		高
導入	【ウォーミング・アップ】 ○今日やるのは「『あ』の百面相」というウォーミング・アップです。最初に言い始めた生徒の「あ」と動きを真似して, 次の人に届けるといふ, 声と動きのリレーです。 ○今までの席替えで, 多かった決め方は何がありますか。	【ウォーミング・アップ】 ○今日やるのは「社長, 大変なことになりました」という活動です。隣のひととじゃんけんをして, 勝った人は社長, 負けた人は社員になります。社員が「社長, 大変なことになりました」と言い, 大変なことを話します。その後, 社長は「大丈夫。○○しよう!」で返し, 社員が「さすが社長!」で締めくくります。機転を利かせて答えるウォーミング・アップです。	【ウォーミング・アップ】 ○今日やるのは「リモコン」というウォーミング・アップです。私がある番組を言うので, みんなでその番組の登場人物などになり, 動きや声で表現してください。ほかのひとと登場人物が重なってもいいです。 ○「思いやり」という言葉から, 連想することには何がありますか。
展開	○主人公の副委員長が席替えのやり直しの提案に迷ったのはなぜですか。 ○みなさんが主人公の副委員長だったら, 席替えのやり直しの提案をしますか。また, それはどんな理由からですか。 ○今日は主人公の副委員長がした席替えの再提案といった行動についてしっかり考えてほしいので, 今から4人グループでシナリオを音読しながら, それぞれの役を演じてみましょう。 ○シナリオを音読しながら演じる活動をしてみて, 思ったことや気付いたことについて発表してみましょう。 ○なぜ副委員長は, 再度席替えを提案したのでしょうか。どのような理由だったのか, 4人グループで考えた後, ホワイトボードに書いてみましょう。 ○みんなの意見を見て, 「共感」や「質問」の磁石を貼って考えましょう。【シェアリング】 補みんなの都合がよければよいのではないですか。 補副委員長も, 好きな人と席が隣になるかもしれないのに, なぜ再提案したのでしょうか。	○誰がどうされた話ですか。【資料の提示】 ○帰宅しようとしたときに傘がなくなっていた大介はどんな気持ちだったのでしょうか。 ○大介は和明のアドバイスを受けたほうがよいですか, 断ったほうがよいですか。理由も考えてみましょう。 補和明は, 大介に意地悪しようとして, ちょいがりを勧めているのでしょうか。 補みんながちょいがりをするようになったら, 学校はどうなるのでしょうか。 ○大介はどう答えたらいのかワークシートに書いて, ペアで二人を演じてみましょう。【ロールプレイング1】 ○演じてみて, 思ったことや気付いたことを列ごとに順番に発表してみましょう。【シェアリング】 ○ほかの場面(修学旅行先での大浴場で, 泳ぐと友だちに誘われる)でもどのような行動を取ったらよいのか, まず自分一人考え, ペアで演じてみましょう。【メンタルリハーサル, ロールプレイング2】	○学校でしゅんと落ち込んでいる由紀さんに, 香さんやクラスのほかの友だちは, この後どうするのがよいでしょうか。 補香さんとクラスのほかの友だちでは, 由紀さんとの関係性が違うけれども, みんな同じ行動を取りますか。 ○この資料には, 登場人物の会話は全く書かれていません。由紀さん, 香さん, クラスのほかの友だちの役のセリフを自分で考え, 4人グループで前半・後半に分かれて即興的に演じてみましょう。見ている人は, 演じている人を見て, いいなと思った言葉や態度, 気付いたことをメモに取りながら, しっかりと演技を見てください。 ○演じている人を見て, 感じたことや気付いたことをホワイトボードに書いてみましょう。 ○みんなの意見を見て, 「共感」や「質問」の磁石を貼って, みんなで考えましょう。【シェアリング】 補由紀さんの立場だったら, どうされるのが嬉しいのでしょうか。
終末	○今日は席替えの再提案をした, 主人公の副委員長の行動を通して, 「公平」「公正」についてじっくり考えました。今日の授業を振り返って, 気付いたことや感じたことを書きましょう。	○今日はちょいがりを断った大介の行動を通して, 全体のことを考え, 互いに迷惑をかけることのないような行動をとろうとする態度について考えました。今日の授業を振り返って, 気付いたことや感じたことを書きましょう。	○今日は困っている友だちにどのようなことをしてあげたらよいか, 役割演技を通して, 思いやりをもって接する態度についてじっくり考えました。今日の授業を振り返って, 気付いたことや感じたことを書きましょう。

(2) 生徒のワークシートに記述された内容の分析

生徒のワークシートの記述内容を分析するに当たり, 研究主題を基に評価基準を作成した。視点Aは「道徳的価値の理解の深まり」, 視点Bは「自分との関わりで考える」に関する基準である。記述内容の評価基準を右の表6に示す。また, 表6の評価基準を用いて, 検証授業の記述内容を評価した結果を次頁図2に示す。

図2の視点A「道徳的価値の理解の深まり」は, 3回の検証授業とも段階3の生徒が8割を超えていることから, 多くの生徒がねらいとする道徳的価値を具体的に理解することができたと言える。

表6 ワークシートの記述内容の評価基準

視点	段階	記述内容
A 道徳的価値の理解の深まり	3	道徳的価値についての意味や大切さや, 大切さは分かっているがなかなか実現できなかったりすることや, 多様な考え方や, 感じ方があったりすることを一般論や抽象的な記述だけでなく, 具体的な例や場面を挙げて記述している。
	2	道徳的価値についての意味や大切さや, 大切さは分かっているがなかなか実現できなかったりすることや, 多様な考え方や, 感じ方があったりすることを記述しているが, 一般論や抽象的な記述だけで, 具体的な例や場面を挙げて記述していない。
	1	道徳的価値についての記述がない。
B 自分との関わりで考える	3	自分事として考え, どうすべきかということや自分はこうありたいということについて具体的に記述している。
	2	自分事として考え, どうすべきかということや自分はこうありたいということについて記述しているが, 具体的ではない。
	1	自分事としての記述がない。

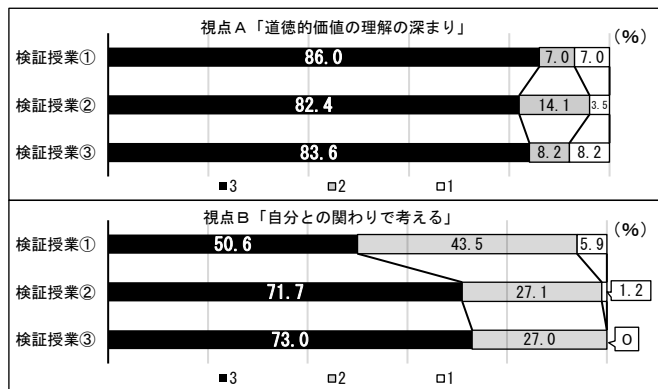


図2 検証授業のワークシートの記述内容の評価の比較 (n=85)

また、視点B「自分との関わりで考える」に関しては、検証授業を重ねるごとに、段階3の記述を書いている生徒が増加した。検証授業①は動作化を取り入れ、シナリオを音読しながら演じる活動、検証授業②はモラルスキル学習を取り入れ、半分シナリオに準じて演じるが半分は即興的に演じる活動、検証授業③は役割演技を取り入れ、最初から即興的に演じる活動であった。検証授業①は、段階3の記述が5割に留まった。シナリオを音読しながら演じる活動だけでは、自分との関わりで考えることができるものの、具体的な例や場面と結び付けるということに課題が残ることが分かった。検証授業②と③を見ると、段階3の記述を書いている生徒が7割を超えていた。段階的に数を重ね、体験的な学習に慣れてきたことや、即興性が高い活動ほど自分との関わりで捉えることに効果があることが分かった。

これらのことから、検証授業での体験的な学習は、動作化、モラルスキル学習、役割演技と違いはあるが、どの体験的な学習でも道徳的価値の理解の深まりには効果があり、生徒は自分との関わりで道徳的価値の理解を深めることができたと考えられる。

2 役割演技等の体験的な学習を取り入れた指導の工夫は、自分との関わりで実感を伴って道徳的価値を理解することに効果的であったか

(1) 自分との関わりで実感を伴って道徳的価値を理解することができたか

役割演技等の体験的な学習を取り入れた指導の工夫は、自分との関わりで実感を伴って道徳的価値を理解することに効果的であったかに関わるアンケート結果の比較を右の図3に示す。

図3①の「登場人物や取り扱った出来事などに対して、常に自分の体験や行動と重ねたり、思い出したりしながら考えている。」という項目に関し、肯

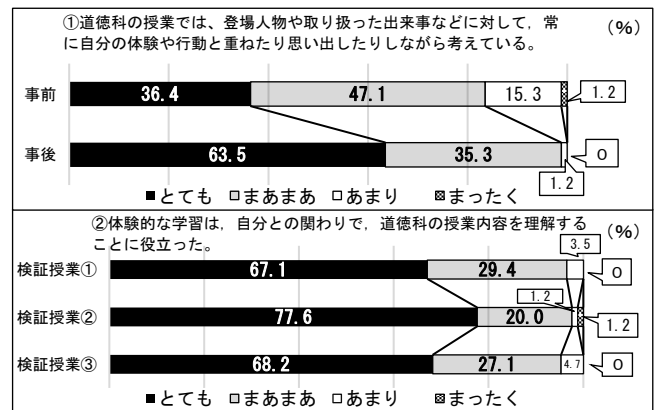


図3 体験的な学習に関わるアンケート結果 (n=85)

定的な回答は、検証授業前は83.5%であったが、授業後は98.8%となり、「とてもあてはまる」と回答した生徒も、27.1ポイント増加した。さらに、図3②の「体験的な学習は、自分との関わりで、道徳科の授業内容を理解することに役立った。」においても、肯定的な回答をした生徒は、毎回95%を超えている。事後アンケートにおいて、次に示したような記述をしている。

- 一人で考えるだけでなく、役割演技をして、実際にやってみて、より自分の考えを深めることができたからよかった。
- いつもより深く考えることができた。実際に同じような場面で、演技をしてから、登場人物の気持ちを考えることは、グループで話し合うだけでは分からないことも分かった。
- いつもの道徳と違って体験的な学習を取り入れた道徳は、人の気持ちになりきれたり気持ちを考えたりすることができ、生活に生かせると思った。

事後アンケートにおける振り返りの記述内容の一部

これらの記述から、役割演技等の体験的な学習が、生徒にとって実感を伴って道徳的価値を理解することに役立っていることが伺える。

一方で、図3②では、検証授業③よりも検証授業②に肯定的な回答が多い。検証授業②では肯定的な回答にしていながら、検証授業③で否定的回答へ移動した生徒に、授業後の聞き取りを行ったところ、「役割演技のとき、女子に近づいて話しかけないといけなくて緊張した。」「授業で『クラスのほかの友だち』の役をやったが、ただ、立っておくだけで、何もすることがなかった。」と答えた。また、役割演技において、主人公の由紀や親友の香役だった生徒は「どんな友だち関係か、詳しい設定が欲しかった。すべて自分たちで考えて演じるのは難しい。」と答えた。中学生の発達の段階では、異性間での体験的な学習に配慮が必要であること、即興性が高い役割演技とはいえ、表2に示すような具体的な条件設定の情報が必要であったことが分かった。

以上のことから、役割演技や動作化等の体験的な学習を取り入れたことは、生徒がより登場人物の気持ちに寄り添ったり、当事者意識をもったりして、実感を伴って道徳的価値を理解することに効果的であったと考える。

(2) 取り入れた指導の工夫は効果的であったか

ア スモールステップとウォーミング・アップ

緊張したり、周りの友だちを意識したりせず、自分の考えを自由に発表できているかを問うアンケート結果の比較を図4に示す。

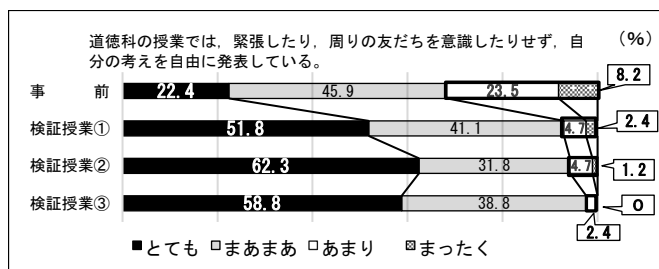


図4 緊張したり、周りの友だちを意識したりせず、自分の考えを自由に発表できているかを問うアンケート結果 (n=85)

検証授業前の事前アンケートでは、発表に対して心理的な負担を感じていた生徒は31.7% (27人)であったが、検証授業を重ねるごとに、7.1% (6人) → 5.9% (5人) → 2.4% (2人)と減少した。

これは、即興性が低い体験的な学習から始め、少しずつ即興性の高いものを授業に取り入れるというスモールステップの効果や回数を重ね、活動を繰り返すことにより抵抗感が軽減されたと考える。また、事前アンケートで否定的な回答をしていた生徒27人の事後アンケートの記述内容の一部を示す。

- 体験的な学習を取り入れた授業は最初のウォーミング・アップが楽しかったです。今までウォーミング・アップがなかったから、急にグループで話すので苦手だったけど、ウォーミング・アップによってグループで協力して関わりをもったから気軽に話せました。
- 体験的な3回の授業は、日頃の授業に比べてよりわかりやすく授業を受けることができた。ウォーミング・アップをすることでどのような活動をするのか想像することができたので、よかったと思う。
- 2人で話していると楽しく、ウォーミング・アップをした時に登場人物になりきってやることができたし、演技に入りこんだらもうなりきっていて、とても楽しかったです。

事前アンケートで否定的な回答をしていた生徒の事後アンケートの記述内容の一部

記述内容から、授業の最初にウォーミング・アップを取り入れたことが、1時間の授業において体験的な学習を取り入れる際のスモールステップとなり、緊張を解すことに繋がっていたことが伺える。

一方で、検証授業③後も、「あまり」と否定的

な回答をしていた生徒2人に、授業後の聞き取りを行ったところ、前述の聞き取りと同じで、「異性とのやり取りに緊張した。」と述べる生徒がいた。また、「道徳の授業だけでなく、どの授業でも発表することが苦手だ。」と答えた生徒がいた。心理的な負担を軽減するためには、異性間での体験的な学習への配慮に加え、道徳科の授業以外でも成功体験を重ねる必要があることが分かった。

これらのことから、即興性が低い体験的な学習から始め、少しずつ即興性の高いものを授業に取り入れるスモールステップや、役割演技等の体験的な学習の前にウォーミング・アップを取り入れることは、効果的であったと考える。

イ シェアリング

シェアリングを取り入れたことは、生徒の心理的な負担を軽減することに繋がっていたかに関わるアンケート結果の比較を図5に示す。

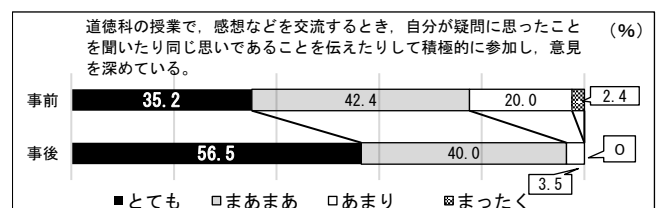


図5 シェアリングについてのアンケート結果 (n=85)

図5の「道徳科の授業で、感想などを交流するとき、自分が疑問に思ったことを聞いたり、同じ思いであることを伝えたりして積極的に参加し、意見を深めている。」という項目に関し、検証授業前と授業後と比較すると、否定的な回答をした生徒が、18.9ポイント減少し、肯定的な回答が77.6%から96.5%と増加した。

また、検証授業①と③では、シェアリングにおいて、生徒一人一人が「共感」「質問」の意思表示ができる2色の磁石を活用した。体験的な学習後、4人グループで話し合ってた、気付きや感想をホワイトボードに記入し、黒板に掲示した後、生徒は「共感」するボード、「質問」したいボードに磁石を置く活動を行った。シェアリングでは、磁石の集中したところを中心に、学級全体で、話し合いを深めていった。事後アンケートにおけるシェアリングについての生徒の感想を次頁の表7に示す。

多様な思いを引き出し、学び合うために、磁石を活用しての「動き」を取り入れることで、生徒Aは、疑問を質問しやすかったことを述べ、周囲の生徒から共感を得た嬉しさを感じていることが分か

る。生徒Bは、シェアリングの機会の多さが相手への傾聴となり、尊重へと繋がっていることが分かる。生徒Cは、シェアリングをすることによって、自分とは違う人の意見に気付くだけでなく、納得までできたと言っている。また、生徒B、Cの記述からはシェアリングによって、考えが深まった様子も伺われ、シェアリングによって、道徳的価値の理解が深まっていることも分かる。

表7 シェアリングについての生徒の感想の一部

生徒A
いつもは、自分の意見をはっきり言ったり、みんなに伝えることをしたりすることがなかったけど、今回の授業では黒板に磁石を貼ったことで、疑問に思うところに聞きやすかったりしたので、相手も共感してくれ、すごく楽しい授業になった。
生徒B
ペアでの活動やグループでの活動が何倍も多かったので自分の意見を深めることができたし、相手の意見もしっかりと聞いて、相手の意見を尊重することができました。これからは自分の意見を深めていきたいです。
生徒C
一人で考えただけでは、思っていなかったことも、人の意見を聞いて気付いて納得することが2、3回あったので、人と話し合うのは、大切だということが改めて分かりました。

これらのことから、シェアリングを取り入れたことは、周囲の生徒からの受容や肯定的な助言等を受けやすくすることとなり、道徳的価値の理解を深めることにも繋がったと考える。

Ⅵ 研究のまとめ

1 研究の成果

中学生という発達の段階を意識した上で、役割演技等の体験的な学習を取り入れた指導の工夫を行うことは、生徒が実感を伴って、自分との関わりで道徳的価値の理解を深めることに有効であることが分かった。その上で、体験的な学習の指導を行う上での留意点を3点示す。

- 体験的な学習を取り入れる際には、最初に即興性の低い動作化、最後に役割演技といったように、スモールステップで、生徒の心理的な負担を軽減させることが大切である。
- 即興性の高い役割演技においても、できるだけ最初に、即興性の軽減を行うことが重要である。例えば、役割演技の冒頭だけでも、授業者が会話例を資料やプリントで提示することや、具体的にその場面が想像できる大きな場面絵や登場人物のキャラクター設定を黒板に貼るなどである。表2に示した条件設定を明確に行うことで、生徒は具体的に演じることができる。

- 思春期の中学生は異性や友だちを意識する時期でもあるため、ペアやグループのメンバー構成に配慮する必要がある。

2 今後の課題

限られた35時間の中で、どのように役割演技等の体験的な学習を学校全体で取り入れるかが課題である。今回行った、役割演技等の体験的な学習も国語科で1学期に行った文学的文章の朗読劇があったからこそ、スムーズに取り入れることができた。このことから、生徒の実態を把握し、小学校を含めた9年間を見通した上で、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を整理した道徳科の年間指導計画を綿密に立てる必要性がある。

【注】

- (1) 文部科学省が行った「道徳教育実施状況調査」についての詳細は下記を参照されたい。https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/_icsFiles/afieldfile/2016/08/09/1222218_2.pdf

【引用文献】

- 1) 文部科学省（平成30年）：『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別の教科道徳編』教育出版p. 15
- 2) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 81
- 3) 文部科学省（平成30年）：前掲書pp. 84-85
- 4) 文部科学省（平成30年）：前掲書pp. 14-15
- 5) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 97
- 6) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 97
- 7) 文部科学省（平成30年）：前掲書p. 15

【参考文献】

- 赤堀博行（2017）：『特別の教科道徳で大切なこと』東洋館出版社
- 広島県教育委員会（平成31年）：『広島県教育資料』
- 小宮健（2018）：「動作化、役割演技」『道徳教育12月号』明治図書p. 25
- 保坂亨（2000）：「子どもの心理発達と学校臨床」近藤邦夫・岡村達也・保坂亨編『子どもの成長教師の成長 学校臨床の展開』東京大学出版会pp. 333-354
- 西谷正太・藤川慎也（2015）：「思春期のホルモン変化」笠井清登・藤井直敬・福田正人・長谷川眞理子編『思春期学』東京大学出版会pp. 101-112
- 坂本哲彦（2019）：『教科書教材でつくる道徳科授業のユニバーサルデザイン』東洋館出版社
- 早川裕隆編著（2017）：『実感的に理解を深める！体験的な学習「役割演技」でつくる道徳授業』明治図書
- 林泰成（2016）：「モラルスキル学習を用いた授業」貝塚茂樹・関根明伸編著『道徳教育を学ぶための重要項目100』教育出版pp. 184-185
- 増田謙太郎（2018）：『「特別の教科 道徳」のユニバーサルデザイン授業づくりをチェンジする15のポイント』明治図書
- 天野幸輔（2017）：『アクティブラーニングに変える7つのアプローチ』明治図書
- 江橋照雄（1971）：『役割演技』明治図書
- 岡嶋一郎・針塚進・武藤のぞみ（2001）：「心理劇におけるウォーミングアップ様式とウォーミングアップ体験との関係性について：ウォーミングアップ前後の参加者の状態の変化の視点から」『九州大学心理学研究2』pp. 117-124
- 磯部一雄・杉中康平（2019）：「『動き』のある授業で多様な思いを引き出し、学び合う道徳授業のあり方」『日本道徳教育学会第94回大会発表要旨集』pp. 86-87